



イラスト 出町出版

庭の桜の



はなもみじ

春秋ごとに匂うなり

令和3年2月10日

千曲市立屋代小学校

文責：教頭

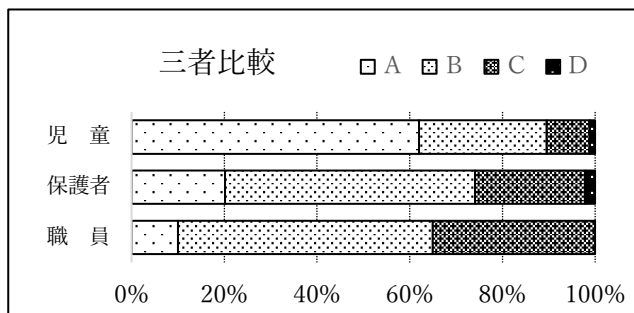
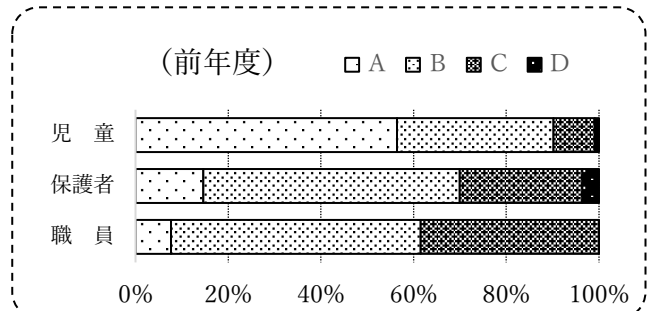
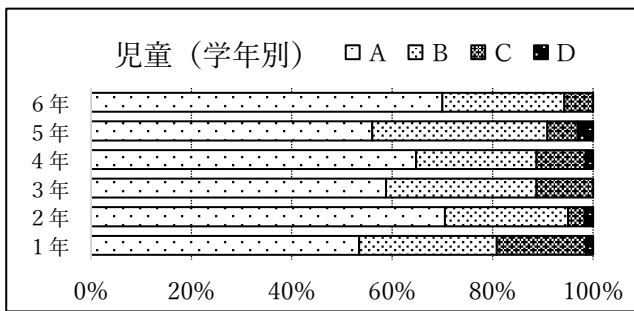
No.16

R4 学校自己評価アンケートの結果から ご協力ありがとうございました

学校では毎年、学校運営の成果や課題を検証し改善の方向を明らかにして次年度に生かすことを目的に学校自己評価を行っています。本年度も学校が目指す重点目標に照らして、保護者・職員・子どもの三者に同じ内容の質問に答えていただきました。三者の受け止め方を比較し今後の学校運営に生かしていこうと考えます。結果を集計しましたので報告させていただきます。

※A「そう思う」 B「まあそう思う」 C「あまりそう思わない」 D「思わない」の4段階で評価
※ 肯定率→「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合

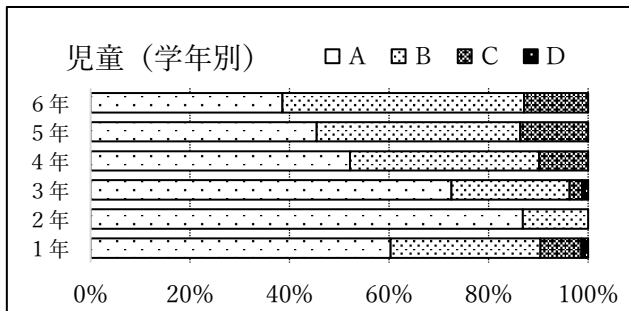
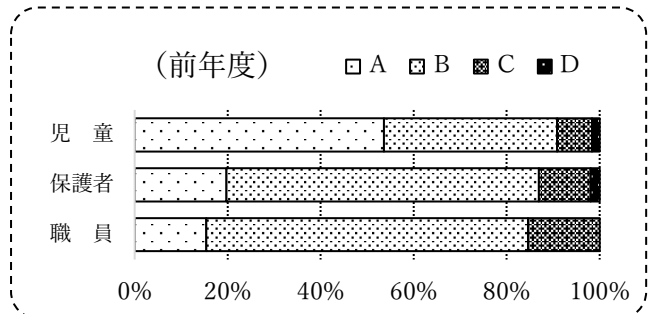
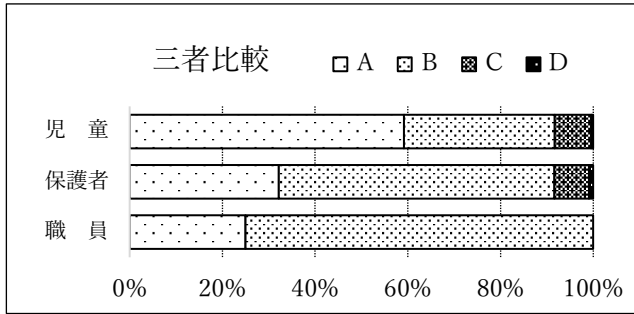
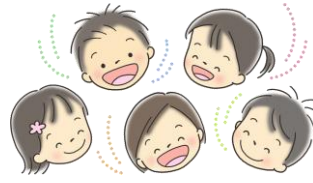
1 学校や地域であいさつができています



- ・児童はよくあいさつができていていると思っているが、保護者や職員の A 評価は 10～20%と低い。これは昨年度も同様です。街頭指導をしていると進んで挨拶をできない子が多いという保護者の意見にもあるように、いろいろな人に挨拶ができていない、または児童が挨拶をしているつもりでも相手に届くような挨拶ができていないのではないかと思います。
- ・児童、保護者共に学年が上がるにつれて、肯定率（A+B）がわずかずつ上がっていく傾向がみられます。挨拶の大切さを理解し、自らしていこうという意識が向上していくためではないかと思います。児童会で挨拶運動に参加したり、学級だけでなくいろいろな集団での行動場面が増加したりし、挨拶の習慣が身についてくる児童が多いのかもしれない。



2 誰とでも仲よく しようとしている

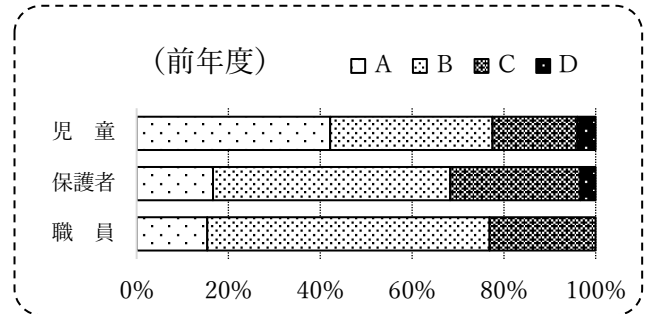
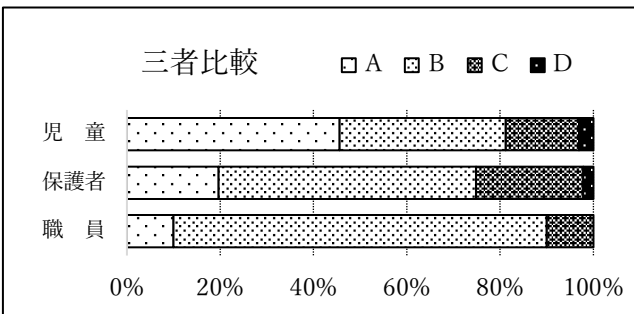


・児童を学年別でみると、肯定率は90%近いが、A評価の児童は学年が上がるにつれて下がっていく傾向があります。友だちとの関係づくりが高学年になると難しくなってくるのが一因ではないかと思われまます。職員は友だちとの関わりを注意深くみていく必要があると感じます。

・昨年度と比較すると、児童は同程度だが、保護者や職員の肯定率が向上しています。職員が児童一人一人をよく見て接したり、問題があったときはすぐに対応したりしてきたことの成果と思われまます。今

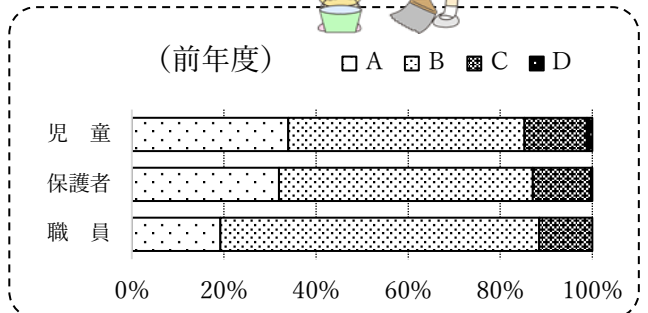
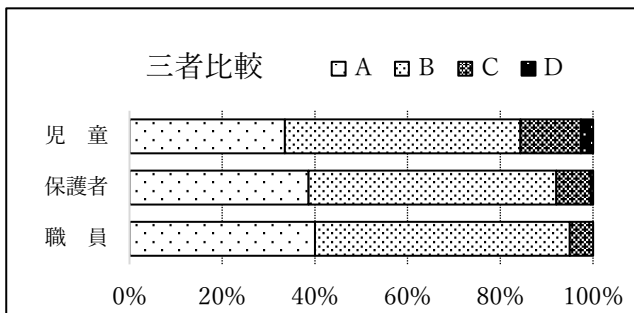
後も引き続き、児童同士の関係についてはアンテナを高くして、全職員で見守っていきます。

3 整理整頓を心がけものを大事にしようとしている



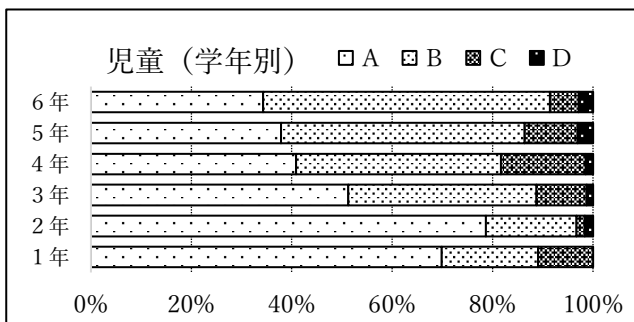
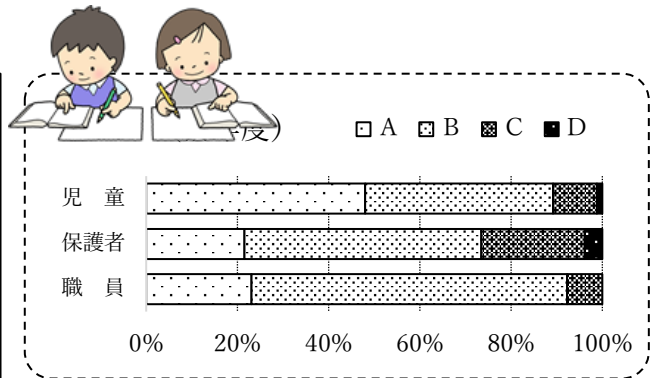
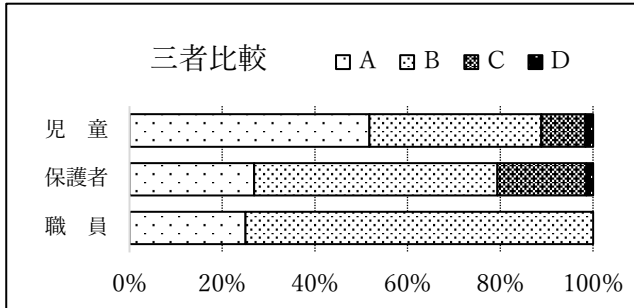
- ・三者を比較すると児童のA評価が高いが、質問が整理整頓に限定されていることが、このような結果につながっているかもしれません。肯定率は三者80%前後だが、保護者は家庭での様子などから肯定率が他より低い結果となっています。学校ではきちんとしようという児童の意識が伺われます。
- ・前年度と比較すると、肯定率が三者共にわずかながら向上しています。児童の意識が少しずつ変化し、行動に表れていることが考えられます。

4 最後まで頑張ろうとしている (そうじを時間いっぱい頑張っている)



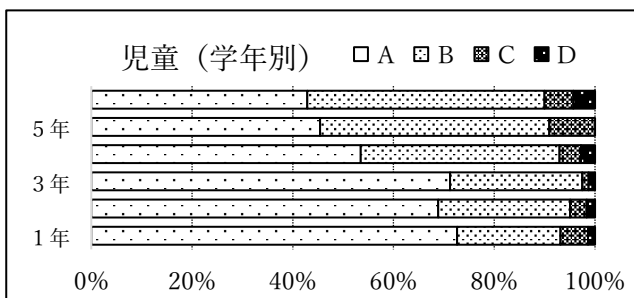
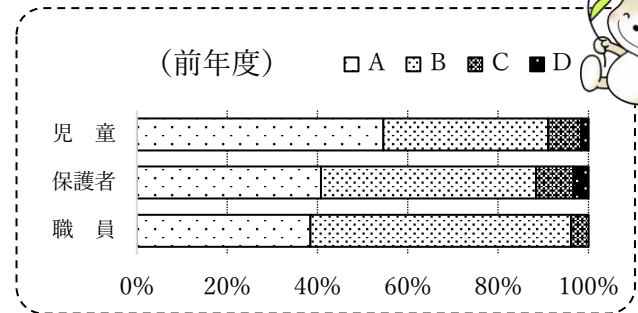
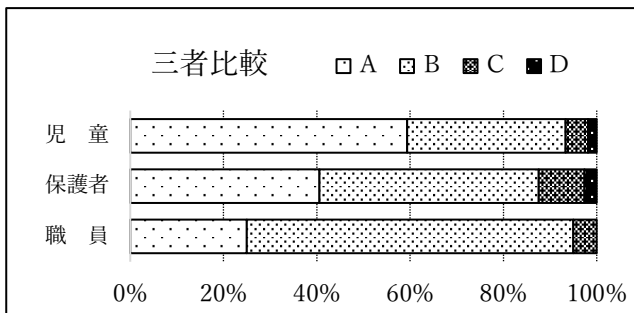
- ・児童の肯定率やA評価が、保護者や職員と比較すると少し低いです。質問に「そうじをだまって時間いっぱい」というように、そうじの場面に限定されていたり、2つの要素が含まれていたりことが影響しているかもしれません。それでも児童の肯定率も80%以上で、頑張っていて取り組んでいる子が多いことがわかります。
- ・前年度と比較すると、保護者、職員の肯定率が高くなっています。そうじに限らず、様々な場面で児童が頑張っていて取り組んでいることが伺われます。

5 本気で勉強している



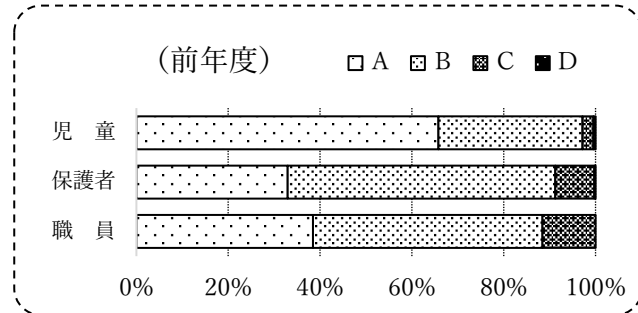
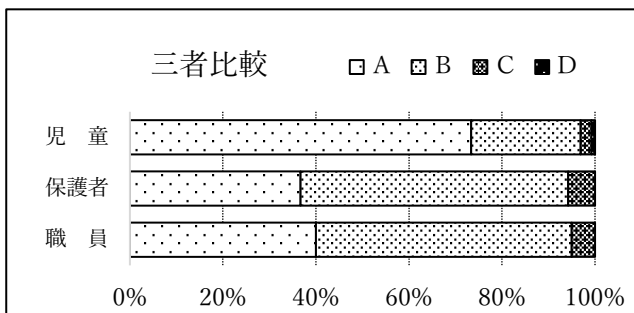
- ・児童の回答を学年別にみると、学年が上がるにつれてA評価が減少しています。肯定率はそうした傾向がみられないので、一生懸命に学習に取り組んでいるものの、学習内容が難しく多くなり、学習への困難さを感じている児童が増えてきていると思われます。
- ・保護者の肯定率も学年が上がるにつれて下がってきています。職員は、よりわかりやすい、また、学ぶことが楽しい授業づくりに向けて研修を重ねていくようにします。

6 喜んで学校に通っている (学校は楽しい)



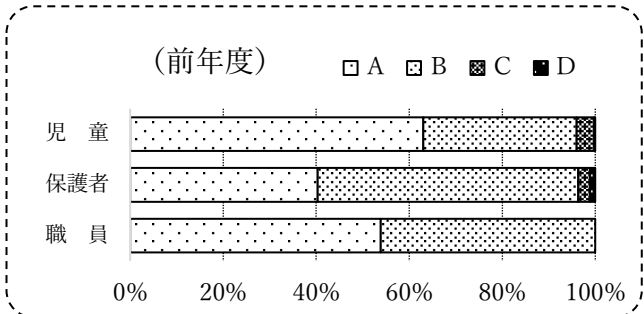
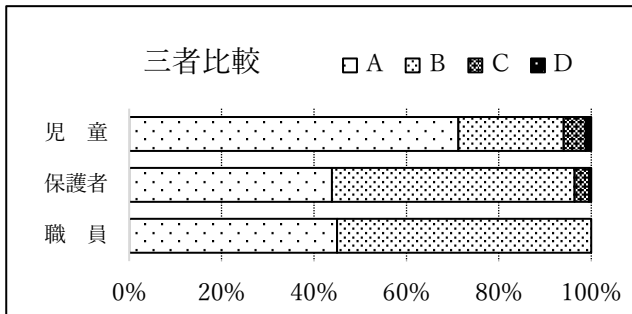
- ・学年別でみると児童のA評価が学年が上がるにつれて下がっています。前述の「なかよく」「学習」等学年が上がる多様な問題や悩みをかかえるようになってきていることが関係していると思われます。逆に楽しくないと感じている児童の割合が学年が上がるが増えています。教師は、温かな眼差しで児童一人一人を見守り、楽しくないと感じている児童には、一層声掛けをし、寄り添っていくようにして参ります。

7 安全に注意して生活している (交通ルールを守っている)



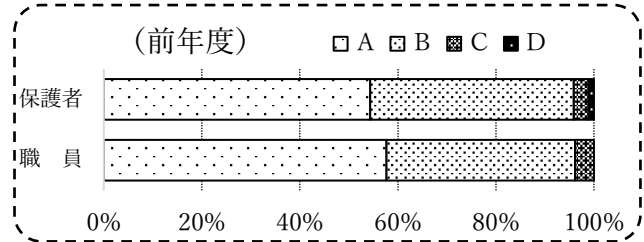
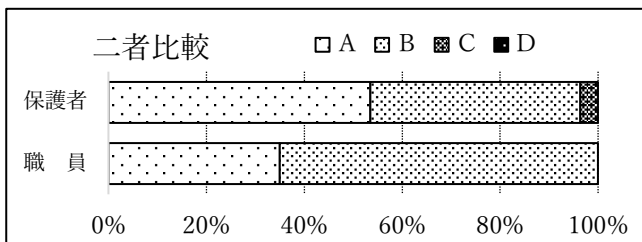
- ・三者共に肯定率が90%を越えており、安全に気をつけて生活していることがわかります。
- ・児童は多くの子がA評価であるが、保護者や職員はB評価が多い。児童への質問が登下校に限定されていることの影響も考えられますが、児童は意識しているつもりでも、他から見るともっと気をつけて欲しいところがあるということ。登下校に限らず、安全な歩行、自転車乗り、不審者への対応等、継続して引き続き指導していく必要だと感じました。

8 教師は子どもたちを理解し適切に指導している（困った時相談にのってくれる）



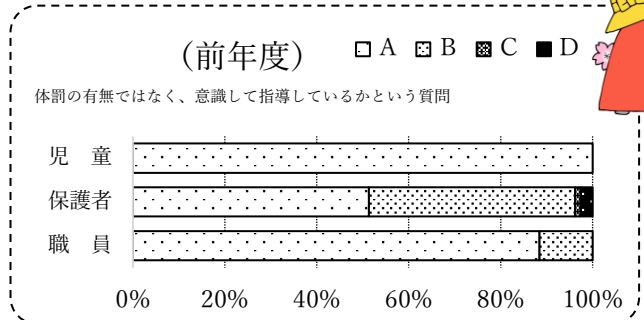
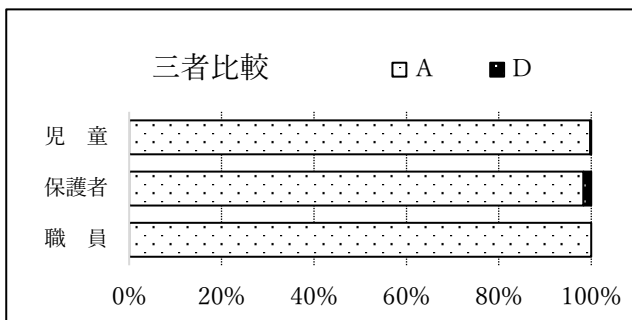
- ・A評価が児童だけ高いが、児童への質問と保護者・職員への質問が違うことが、結果の違いにつながっていると考えられます。
- ・保護者の肯定率が95%程で、職員の取り組みが保護者にも十分理解してもらっているといえます。しかし、D・C評価の保護者もわずかながらいますので、更に家庭とも連絡を密にしながら児童の指導にあたっていく必要があると考えます。

9 学校は学校や学級の様子を地域や保護者に伝えている



- ・保護者の肯定率が95%程と高く、しっかり伝えているとほとんどの家庭が捉えていただきました。
- ・一方で、保護者意見の中には、学級便りでもっと学級の様子を伝えて欲しいというものがありました。コロナ禍で参観日等がなくなってしまい児童の様子が分かり難い状況を考慮し、より積極的に伝えていくよう努めていきます。

10 職員によるお子さんへの体罰(叩く、蹴る、暴言等)がありましたか。



- ・保護者で「ある」との回答が数名いたが、職員の言葉遣いについてのものでした。職員会議の中で、体罰をおこなわないことはもちろん、教職員が発する「ことば」についても、威圧的、一方的、相手を傷つけることばになっていないか、自身を振り返り、相手を大切にする意識をもって子どもたちに接していくことを全教職員で確認しました。「叩く・蹴る」等の体罰については、許されないことなので、絶対におこなわないようにしていきます。

❖児童・保護者・学校・地域、これら4者の力が合わさったときに、最大の力が発揮されます。児童の成長を支えるために、よりよい関係づくり、連携に努めてまいります。心配なことや不安なこと等ありましたら、いつでもご相談ください。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。